**堺市バリアフリー基本構想重点整備地区**

【地区別状況】

|  |  |
| --- | --- |
| ①地区名 | 泉北高速栂・美木多駅周辺地区 |
| ②基本構想策定時期 | 平成27年度（2015年度） |
| ③地区選定理由 | ○乗降客数3,000人以上の駅（特定旅客施設）及び区役所  ○堺市交通バリアフリー基本構想での策定地区を除いた地区  ○地区内に主な特別特定建築物（特定旅客施設を含む。）が３以上所在する地区（新規整備対象候補地区）（8）  ○整備効果が高いと特に見込まれる地区 |
| ④基礎情報 | 【1日平均乗降客数】  （平成25年度）21,855人⇒（平成30年度）19,488人  【地区特性（策定当時）】  本地区は、昭和40年から泉北丘陵住宅地区開発事業によって計画された泉北ニュータウンの一角であり、地形による勾配が多い地区です。  しかし、計画的な土地利用や緑道などを配置した歩行者ネットワークが形成されるなど、先進的な都市計画が進められてきた地区となっています。  生活関連施設としては、南区の中核的な施設である南区役所、栂文化会館、南堺警察署などの公共施設が多数立地しているほか、近畿大学医学部堺病院、大阪府立泉北高等支援学校などの高齢者、障害者等が特によく利用すると見込まれる施設が立地しています。  今後、本地区では原山公園内での泉ヶ丘プール機能の移転整備など新たな土地利用転換や機能導入の動きが見込まれており、駅周辺の開発や人の流動が変化する可能性があります。  【令和元年度の特定道路指定延長の状況】  3.88㎞（うち、未整備区間2.68㎞） |
| ⑤基本構想策定当時の課題 | 地区特性で示しているように、本地区は丘陵地を開発した地区であることから、地形的な急勾配が生じやすくなっています。  そのため、各生活関連施設においてもそれぞれ異なる標高に立地しており高低差があるため、施設間の移動には垂直移動による制約が大きくなっています。  このような地形的な制約がある中で、生活関連経路については、スロープや階段等を併用するなど利用者のニーズにあった機能分担を図るなどの工夫が必要となります。  また、地区の開発から約50年を経過しており、各生活関連施設においてはバリアフリーの考え方に基づいた設計がなされておらず、移動等円滑化基準に適合しない施設が多数あるとともに、設備等の老朽化も著しい状況にあります。  しかし、新たな市街地更新の動きも活発化しており、開発動向を踏まえながら駅前広場や道路、公園等の社会基盤整備も検討する必要があります。 |
| ⑥特記事項・備考 | ・平成29（2017）年　ガーデンシティ栂・ダイエー栂店閉店。令和元年、跡地にtonarie栂・美木多開業  ・平成30（2018）年　近畿大学医学部附属堺病院閉院。堺咲花病院へ事業譲渡。  ・令和2（2020）年　原山公園プール開業  ・当該地区内には、「堺市緑の基本計画（平成30年3月改定）」に位置付けられた15公園のうち、西原公園が含まれている。 |